

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531108

研究課題名(和文)表現重視の読むことの学習方略が及ぼす読解力育成への影響に関する実証的・実践的研究

研究課題名(英文)The empirical and practical research on the effects of learning strategies of representation emphasis in reading instruction

研究代表者

小久保 美子(KOKUBO, Yoshiko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：30413032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、自己表現を重視した読むことの学習方略の有効性を明らかにすることであった。国語力の高い小学校の読むことのカリキュラムを分析した結果、多読 他教科と関連させた指導 語彙指導 交流活動 学習センターとしての学校図書館の活用を行っていることが明らかになった。アクション・リサーチでは、「こんぎつね」と他の南吉作品を読み、「心に残るお話を見つけて紹介カードに書く」という表現活動を位置付けた全10時間の授業開発を行った。紹介カードの交流活動を通して共有された読み方のよい点を「読みの方略」として意義付け、読みの方略の明示的な指導の在り方とその効果を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the effectiveness of the learning strategies of reading with an emphasis on self-expression. The results of the analysis of the curriculum of reading the high language force elementary school, it has revealed that teachers are doing extensive readingthe guidance that was related to the other subjects vocabulary guidance exchange activities utilization of the school library as a learning center. In action research, the lesson development of all 10 hours that children read the Nankichi's works, including "Gongitsune", then locate a story that remains in the mind, and write in the introduction card were carried out. Excellent reading of friends that have been shared through the exchange of their introduction cards, was attached significance with as "reading strategies". Finally, I have to clear the way and the effect of explicit guidance of "reading strategies".

研究分野：社会科学

キーワード：読むことのカリキュラム 自立した読み手 読みのストラテジー モデリング

1. 研究開始当初の背景

(1) 教科書教材の読解中心授業への反省

教科書教材の読解に終始してきた国語科授業に対する反省の声は、自由記述問題で無答率の高かった2000年のPISA調査以降、高まりを見せ、思考力・判断力・表現力を育成すべく「言語活動の充実」を改善の第一に掲げた現行学習指導要領の改訂につながった。それを受け、読むことの領域では読書紹介や読書推薦、劇化、書き換えなどの表現活動を読むことの核として位置付けた実践が打ち出されるようになった。

(2) 表現重視の読むことの指導への批判

一方で、読むことが表現活動に内包された授業で果たして読解力が付くのかといった不安や批判の声も少なくない。その背景には、表現活動の中で読むことがどのように機能しているのか、また実際、どのように読みの力が付いているのかについて研究的に明らかにされていない点が挙げられる。

2. 研究の目的

本研究は、上記のような背景に鑑み、今求められている「生きる力」としての「読解力」を育成する上で、表現重視の読むことの学習方略はいかなる有効性をもつのか、また国語科の読むことの学習は教育課程上、他の読書活動とどのように連動すればよいのかを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 読むことのカリキュラムの収集と分析

収集の対象としている学校

- ・研究分担者の指導下にある学校
- ・研究協力者の所属校

カリキュラムの分析

「生きる力」としての「読解力」を高めるカリキュラムの動的要素を抽出する。

(2) 授業のアクション・リサーチ

単元開発を行うに当たっては、国内外の読むことの指導に関する文献から知見を得る。授業記録は、全体と抽出児童(2名)の二種類を録画する。学習終了後にインタビューを実施し、ノートやワークシート等と重ね合わせて質的分析を行う。

4. 研究成果

(1) 読むことのカリキュラムの特長

以下に挙げる4つの学校は、国や市の指定を受け、読書活動を中心に据えた研究を行っている学校であり、いずれの学校とも研究の結果、全国学力調査において飛躍的な伸びを見せた。特に、各学校ともB問題の「活用」が顕著に伸びた点は注目に値する。

盛岡市立月が丘小学校

研究主題：自ら学び続ける児童の育成 読書力を育てる学習過程の改善を通して

盛岡市立月が丘小学校は、平成23・24年度に国立教育政策研究所教育課程研究所教育課程研究指定校を受けている。月ヶ丘小で

は、「生きる力」の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等、主体的に取り組む態度を養うために、教育課程改善の推進の柱に、以下の4つの力から成る「読書力の育成」を設定した。A.自らの読書生活を振り返り、読書の意欲をもち続け読書を習慣化する力 B.本、文、文章、図、表、グラフ等のテキストを様々な方法で読解する力 C.テキストを活用して思考し課題を解決する力 D.テキストを活用して自己表現し他者と交流する力。そして、これらの読書力は、「授業改善：【プログラムA】」と「読書環境改善：【プログラムB】」との連動により育成されるとした。両プログラムの内容を以下に示す。

【プログラムA】

ア.児童の実態を踏まえた単元構想と単元の目標にふさわしい言語活動の設定

イ.児童の思考過程と学習活動の過程の一致を促す授業構想とシート(語彙集シートと作業用ワークシートの二種類)の開発

ウ.単元の目標や言語活動に対応したテキストの選定と活用

エ.多様な種類の読書活動の推進

【プログラムB】

ア.図書館利用計画及び図書館利用時間策定

イ.司書教諭・読書ボランティア・読書活動支援員の機能の明確化と授業への活用

ウ.全校一斉読書の取組

エ.家庭や地域との連携

オ.レイアウト・書架・掲示・表示の改善

カ.読書量、図書館滞在時間等の調査と分析

本取組の結果、以下の変容が見られた。

ア.授業の中でテキストや学校図書館の目的的な活用がなされるようになった。

イ.授業と日常の読書が双方向で作用し合う様子が見られるようになった。

また、平成24年度全国学力調査の平均正答率が21年度に比して顕著な伸びを見せた。

国語A	平均正答率	
	24年度	21年度
本校	87.6%	71.7%
岩手県	82.7%	71.2%
全国	81.6%	69.9%
全国比	107.4%	102.6%
国語B	平均正答率	
	24年度	21年度
本校	65.6%	55.2%
岩手県	56.3%	53.0%
全国	55.6%	50.5%
全国比	118.0%	114.5%

横浜市立白幡小学校

研究主題：学ぶ意欲・考える力を育む、豊かな学び合いの創造 思考力・判断力・表現力育成のシステム化による学力の向上

横浜市立白幡小学校は、平成24・25年度国立教育政策研究所教育課程「思考力・判断力・表現力の育成」研究指定校を受けている。白幡小は、同一視点を掲げた二段階のカリキュラム改革により、積み上げを図っている。

【カリキュラム改革】

Focus 1：得た知識や技能を次の学習や生活に活用する力の育成

- ・一単位時間のプロセスとワークシートの工夫：思考操作や言語操作を位置付ける。

Focus 2：自主的学習力（ラーニングスキル）の習得

- ・各教科等の基盤となる能力（学び方や考え方、ことばの力）を「**のこつ**」「**名人の け条**」等とまとめ、「白幡ファイルA」として蓄積・分類・整理し活用する。

Focus 3：得た知識を活用する言語環境の整備

- ・学校全体が目に見えるカリキュラム～子どもが系統的に活用、家庭が分かる、地域が分かる～ラーニングスキル等言語環境を意図的・目的的に整備する。
- ・“読書は学力”の合い言葉のもとに、「公立のミニ図書館」から「学校の図書館」へと改革する。“子どもが10分以内に目的の本を探せる図書館へ”

【カリキュラム改革】

Focus 1：得た知識や技能を次の学習や生活に活用する力の育成

- ・学年系統による大まかな思考語彙を確定する。
- ・子どもが主体的に学習を進める“単元の構造”を明確化する。
- ・既習の学力を子どもがメタ認知できるようカリキュラムを更新する。

Focus 2：自主的学習力（ラーニングスキル）の系統性

- ・各教科等の基盤になる「白幡Aファイル」の大まかな系統を明らかにし、教科独自の系統「白幡Bファイル」と分けて整理する。

Focus 3：得た知識を活用する言語環境の改善

- ・学校全体が目に見えるカリキュラム～子どもが系統的に活用、家庭が分かる、地域が分かる～言語環境を整備する。
- ・“読書は学力”の合い言葉のもとに、「公立のミニ図書館」から「学校の図書館」へと工夫改善する。

白幡小の取組の特長として、“読書は学力”を合い言葉として学校図書館を「学習活動」と「読書活動」の二つの機能が叶う図書館に改造し、「学年別調べ学習コーナー」、「郷土資料コーナー」の「学習室」と「作家別コーナー」「作家別絵本」（畳スペースもあり）の「読書室」とに分け、図書館を学習と生活に活用できるようにした点が挙げられる。

横浜市立並木中央小学校

研究主題：言語活動の充実を図り、確かな言葉の力を身に付ける学習の在り方 身に付けたい力を明確にした国語科単元づくり

横浜市立並木中央小学校は、平成 25・26 年度に国立教育政策研究所学習指導実践研究協力校を受けている。並木中央小のカリキュラムの特長は、以下の3点である。

第一に、「付けたい力」と「言語活動」「教

材」が有機的に結び付いていること。例えば、説明的文章の学習において、社会科や理科の学習で必要となる調べる力、図鑑や事典、科学読み物のシリーズなどを利用する力を意識して付けたい力を明確にし、「単元プラン凝縮シート」に見える形で表している。

第二に、幅広い教材観を有していること。教科書教材文はもちろん、並行読書の作品、児童の実態、既習の経験、言語活動の特徴やワークシート、掲示物、場の設定などの手立てについても「教材」と捉えて分析し、それらを「教材分析シート」に表している。

第三に、年間を見通して意図的・計画的な指導を行うために、「国語科学級歴」を作成していること。学級歴には、「重点化した指導事項」「身に付けたい力の具体」「言語活動」などが明記され、理科や社会科、生活科、学校行事、児童会活動等との連関を図りながら、確実に、偏り無く身に付けるべき力の育成が可能となるよう単元が配置されている。

その他、学校図書館を活用した「情報活用能力の育成」「読書指導の充実」、各階のワークスペースの掲示板や各教室の掲示スペースを活用した「言語環境の整備」に力を入れ、以下のような具体的取組を行っている。

【情報活用能力の育成】

- ・学校図書館を活用した授業を展開し、分からないことや困ったことがあったとき、同じテーブルの友達にすぐに相談できるよう、図書館を話し合いができる空間にする。
- ・学校司書は、具体的な調べ方の手順を示したり、次の資料への橋渡しをしたりする。

【読書指導】

- ・楽しみながら本が読めるよう、学校図書館をリラックスできる空間（畳のスペース）にししたり、本の紹介をし合うスペースとしての環境整備に努めたりする。
- ・各階のワークスペースに、国語科学習で取り組んだポップやカードなどを本と一緒に置き、友達が書いたものを読んで、すぐに本を手にとることができるようにする。
- ・子ども全員が自分の「ブックポケット」を持ち、そこに今読んでいる本や並行読書で読み進める本を入れる。教師は、子どもの読書傾向をつかむことができる。

【言語環境の整備】

ア．掲示スペースの活用の視点

廊下にあるワークスペースの掲示板は、低・中・高学年各ブロックに配当されており、以下の視点に基づいて活用されている。

- a. 国語科での学習の成果を発表する。
- b. 表現の工夫の仕方を紹介する。
- c. 筆者や教材に関連した書籍等を紹介する。
- d. 興味や関心を喚起するためのクイズやワークのようなものを掲示する。

イ．教室の掲示スペースの内容

- a. 単元計画や学習の進め方を掲示する。
黒板右のスペースに、単元計画や学習の進め方を掲示。全クラス共通。
- b. 学習に関連した言葉を掲示し、蓄積する。

壁面に、国語科で使われる用語や学習語彙、単元に関する言葉などを掲示。

c. 話型や聴型の基本の掲示

唐津市立簗木小学校

研究主題：主体的に読むこと的能力を育てる指導法の研究 知識・技能の確実な習得を計らいながら

唐津市立簗木小学校は、平成 23・24 年度唐津市教育委員会指定を受けている。簗木小のカリキュラムの特長として、第一に、「読書力向上プロジェクト」の取組、第二に、「読むこと的能力の体系化と指導法の重点化」の遂行が挙げられる。以下、概要を述べる。

【読書力向上プロジェクト】

読書力向上プロジェクトは、4つのプログラムとそれらの実現に向けた複数の具体的な目標及び具体方法から成っており、それぞれ宣言形式で示されている。

プログラム 1：読書力を向上させます。

- a. 貸出冊数を年間 500 冊増やします。
- b. 学校図書館滞在時間を 1.5 倍にします。
- c. 学校図書館利用者数を 1.5 倍にします。

図書委員会活動の活性化、図書館での授業の計画、学年コーナーの設置

プログラム 2：読書をして、表現させます。

- a. 読書記録ノートや読書ヒントの活用をさせます。

記録ノート・読書ヒントの工夫改善

- b. 読書に関しての表現をさせます。

図書館便りの発行（図書委員会）読書感想文の全員応募、読書発表会の実施

プログラム 3：読書環境を整えます。

- a. 読書に関しての基礎的な知識を定着させます。

作品・ポスターの掲示、作品の保存

- b. 学校図書館に人を配置して運営させます。

図書ボランティア、司書、図書委員

- c. 読書や調べ学習を効率的にさせます。

ブックボックス、授業とのリンク

プログラム 4：ホリディ読書をさせます。

- a. 家庭で読書をさせます。

ホリディ読書、ブックウォーク

【能力の体系化と指導法の重点化】

各教科等と国語科の読みのプロセスを体系化し、読書活動や言語活動を挙げている。

〔各教科等の読みのプロセス〕

- 1 導入・動機 ⇐ 目的的に読む
- 2 課題発見 ⇐ 創造的に読む
- 3 調査・解決 ⇐ 批判的に読む
- 4 予想・仮説 ⇐ 共感的に読む
- 5 調べる・取材 ⇐ 客観的に読む
- 6 分析・解釈 ⇐ 分析的に読む
- 7 考察 ⇐ 多面的に読む
- 8 対話・交流 ⇐ 想像的に読む
- 9 評価 ⇐ 抽象的・具体的に読む

〔国語科の読みのプロセス〕

課題設定

導入 課題設定 単元計画（並行読書）

課題の解決

検索（取捨選択） 音読・黙読 精読

吟味 活用（要約・引用） 表現（感想・研究） 創造・創作

交流

コミュニケーション

評価

〔読書活動〕：読書行為、リライト・パラフレーズ、執筆・創作等、編集、発表会

〔言語活動〕

・創造的な言語活動：

物語、小説、劇、詩、随筆、伝記、戯曲

・実用的な言語活動：

日記、記録、説明、報告、感想・意見、討論、提案・助言、手紙、連絡、通知、紹介、推薦、鑑賞、観察・調査、会議

さらに、読むこと的能力を支えるものとして、「日常的な読書活動」「日常的な言語環境」「家庭・地域による読書活動」を措いている。

〔日常的な読書活動〕

・学校図書館改造：読書に関わる基本的な知識や技能を与える教師手作りのポスター、全校読み聞かせ（お話レストラン）保護者お手製のブックトラック、各コーナー（学年別コーナー、ジャンル別コーナー、図鑑コーナー、新聞コーナー、ステージ別必読書コーナー）各スペース（自由読書スペース、一人で読むスペース、調べるスペース）県立図書館や近代図書館からの本の借り出し

〔日常的言語環境〕

・読むこと的基本的な知識や技能を与える教師手作りのポスター（廊下や踊り場）

〔家庭・地域による読書活動〕

・家庭読書（週末読書）課題読書、自由読書、家庭への本の貸し出し

以上、読むことを全体カリキュラムの核として位置付け、読書力の育成に成功している4校の先進的な取組に共通することとして、以下の8点が明らかになった。

読みの目的を明確にし、教科書教材の他、実際の本を学習材としていること。国語科で培う読みの能力と他教科等が必要となる読みの能力との連関を図っていること。

語彙集シートの準備や獲得語彙の掲示など、語彙指導を行っていること。

思考・判断し、表現する言語活動を取り入れていること。

交流活動を取り入れていること。

学校図書館を児童が学習しやすいように配架を変えたり、コーナーやスペースを設置したりしていること。

学校図書館で授業を行っていること。

学習の成果物を学校図書館や廊下、階段のコーナーに掲示し、学校全体で読書活動を共有していること。

（2）モデリングの重要性

読むことに関する脳研究、教師モデリング、理解指導について述べた文献（Douglas Fisher, Nancy Frey, Diane Lapp, *In a Reading*

of Mind, Brain Research, Teacher Modeling, and Comprehension Instruction, 2009.)から、読むことの指導におけるモデリングの重要性が明らかになった。以下、脳の原則
一般的な読みの目的 教師が見本を示すべき理解方略について訳出する。

脳の原則

本書では、日々、如何なる時も、学習者をアクティブ・ラーニングに誘うために、Medina(2008)の脳の原則が役に立つとして、以下の12の脳の原則を引用している。

- 原則1：目的的な活動は、脳の力を伸ばす
- 原則2：人間の脳は、徐々に進化する
- 原則3：すべての脳は異なって配線される
- 原則4：退屈なことには注意を払わない
- 原則5：短期記憶：忘れないために繰り返す
- 原則6：長期記憶：再び行うために想起する
- 原則7：よく眠れば、よく考える
- 原則8：緊張した脳は同じやり方を学ばない
- 原則9：より多くの感覚をかきたてる
- 原則10：視覚は、他のすべての感覚に勝る
- 原則11：男女の脳は異なっている
- 原則12：私たちは、たくましい、生まれつきの探検家である

読んで感じたことや考えたことをアウトプットする学習は、まさにアクティブ・ラーニングに相当する。原則1、2、4、6、8、9、12などは、適切な学習課題の設定や多様な学習材の準備、課題解決的な学習方法等に関わる重要な原則である。

一般的な読みの目的

学校での学びを実生活に生きたものにするためには、教室での読むことの指導目的を、一般的な読みの目的と合致させることが肝要である。本書では、一般的な読みの目的として、ア・生物学的な、物理学的な、社会的な世界について知ること イ・指示に従うこと ウ・楽しむこと エ・調べること の4つを挙げている。説明的文章教材を読む目的はアやイやエ、文学的文章を読む目的はウということになる。我が国の国語科教育は、ともすると場面や段落毎の詳細な読解に陥りがちであるが、本来の読みの目的に沿った学習指導を展開すべできあろう。

教師が見本を示すべき理解方略

本書には、自立した読み手を育成するために読みのストラテジーを明示的に指導することが重要であるとして、9つのモデリングすべきストラテジーが挙げられている。

- | | |
|---------|------------|
| 目的を決める | 推論する |
| 要約・統合する | 予測する |
| 質問する | 視覚化する |
| モニターする | 重要な事柄を確定する |
- 結び付ける

(3) モデリングの実際

平成25年11月15日～12月5日の期間、N県N市立M小学校で、「ごんぎつね」を中核教材とした南吉単元「心に残るお話を見つけよう！」(第4学年)全10時間のアクション・

リサーチを行った。授業内容と読みのストラテジーの明示的な指導は以下のとおりである。

第1時：課題提示と紹介カードのモデリング
課題：新美南吉の作品を読んで、心に残るお話を見つけよう。

紹介カード(A6サイズ二つ折り)：

- 1面：紹介者 2面：あらすじ
- 3面：心に残った場面とその理由
- 4面：心に残った表現とその理由

第2時：語句指導(「しだ」「菜種がら」「いいい」「かみしも」「ひがん花」「なわをなう」の語句については、写真を示して理解を促す。「つぐない」については、お話の中で考えていこうと投げかけ、次時につなぐ。)

第3時：「つぐない」の指導1：「つぐない」の行為を文脈に沿って押さえる。

第4時：「つぐない」の指導2：「つぐない」の行為からごんの兵十への気持ちを考える。「ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。」

読みのストラテジーの指導(研'リング)：

作品のカギとなる文に着目する

：「つぐない」の指導3：つぐないの行為からごんの兵十への気持ちを考える。

発問：「ごんが兵十にしたつぐないについて、あなたはどう思いますか？」

考えを交流し、考え方のよさを出し合う。

「自分だったらつぐないをしないで「ごめん」とつぶやいているだけなのに、つぐないをするがんばりやのごんはすごい。」

自分と比べて考えているところがいい。

読みのストラテジーの指導：

自分と比べて考える

第5時：「つぐない」の指導4：「つぐない」の行為の意味を考える。

「それが分からんのだよ。おれの知らんうちに置いていくんだ。」

読みのストラテジーの指導(研'リング)：

文と文とを関連させて読む

：一連の行動描写の指導：登場人物の一連の行動を押さえる。

「ごんは、いつもこっそり行っている」という子どもの意見を手がかりに、「兵十に知られないようにつぐないをするごんの一連の行為を押さえる。

読みのストラテジーの指導：

描写をつなげて読む

発問：「最後の場面について、あなたはどう思いますか？」

「青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました。」というところが好きです。理由は、こういう終わり方をするお話は初めてで、意味がありそうだから。」

読みのストラテジー：

優れた表現を見つけながら読む

第6時：「ごんぎつね」の紹介カードの作成

第7時：紹介カードの交流

第8・9時：新美南吉作品の紹介カード作成

第10時：新美南吉作品の紹介カード交流

(4) 表現重視の読むことの学習方略における質的研究

本単元のアクション・リサーチにおいて、S男とT女の学習行動を録画し質的分析を行った。S男はまじめだが国語の特に書くことが苦手、T女は考えをもっているが発言が苦手、国語は好きという児童である。以下は、S男の「ごんぎつね」のあらすじである。

昔ある村の近くに中山という所に小さなおしろがあって、中山から少しはなれた山の中に「ごんぎつね」というきつねがいました。ひとりぼっちのごんは、いたずらばかりしていて、ある日、兵十が取ったうなぎをとってしまいました。十日ほどたつて、兵十の家のそう式を見たごんは「兵十のおっかあはうなぎが食べたいといって死んだにちがいない」と思ってつぐないをはじめます。ごんは、くりやまつたけを持ってきてやりました。ある日、ごんはくりを持っていき、兵十がそれを見てまたぬすみにきたと思って・・・。

さらに、単元終了時に、読書の価値に気付かせる目的で、「ごんぎつね」を読む前と読んだ後とで、自分がどう変わったと思いますか? という問いに答えてもらった。S男は、以下のように記述している。

前は、あらすじを書くのがにがてだったけど、「ごんぎつね」の勉強をして、あらすじを書くのが好きになったということが自分でも分かった。

「ごんぎつね」を勉強して、悪いことをしてつぐないをしても、またいたずらをしにきたと思う人がいると分かった。後、いたずらをした人や動物でも悪いとはかぎらないと分かった。(下線は引用者)

「心に残るお話(場面、表現)を紹介する」という開かれた学びの場と活動が、あらすじまとめに対する自己変容への気付きを促したといえる。S男のあらすじには、物語展開に必要な不可欠な最小限の事柄が書かれており、要約する力の向上も見取することができる。

一方のT女は、以下のように答えている。

ごんはつぐないをしはじめ、本当のやさしさに気づいていきました。わたしは、この話から、本当のやさしさを学びました。

わたしは、手をあげるのは、あまり得意ではないけれど、ノートや紙など、自分で考えることは得意なのではないかと思いました。

みんな、一人一人、すごくいい、自分だけの得意があるのだなと思いました。(下線は引用者)

「本当のやさしさに気づいていきました。」の記述は、第4時の「ごんのつぐないをどう思うか。」という発問に答えたものである。教師はこの記述に目を留め、次時に全体の前で取り上げ、T女に発言を促している。教師の支援によりT女の考えは全体で共有されることになった。この経験がT女の最終的な学びにつながっていったのである。またT女は、第5時の「最後の場面をどう思うか。」の発問に、「うたれたごんもかわいそうですが、そのつぐないに気づけなかった兵十もかわいそうだなと思いました。」と記述している。T女のこの記述は交流活動で複数の友達の目に止まり、よい考えとして全体の前で紹介された。この

ような達成感に裏付けられた学習経験の積み重ねが、「考えることは得意」という自己認知を生じさせ、T女の自己効力感を高めることにつながっていったのである。

また、話の終わり方に着目したK男は、冬休みに南吉全集を読み、既習の「手ぶくろを買いに」の終わり方のよさを再認識したことを教師に報告している。K男の姿は、個々の思いの表現を大切にしたい学びが日常生活の読書活動を豊かにすることを物語っている。

以上の成果は、読解力育成に対する表現重視の読むことの学習方略の有効性を実証的・実践的に裏付けており、読むことの指導改善への重要な示唆を与えるものである。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

小久保美子、今改めて、「単元を貫く言語活動の意味を問う」「大好き」こそ、知的財産の源泉、実践国語研究、査読無、N0.325、2014、pp.9-10

<http://www.meijitoshu.co.jp>

小久保美子、一貫教育の推進に向けて、子どもと授業、査読無、第69号、2014、pp.2-5、

<http://www.nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp>

小久保美子、「紹介する、批評する」は、言語活動の充実をもたらす「知の行為」である、初等教育資料、査読無、No.901、2013、pp.7-11

<http://www.mext.go.jp>

〔学会発表〕(計2件)

小久保美子、読むことの指導におけるモデリングの重要性とその在り方、第57回人文科教育学会、2014年9月6日、筑波大学附属中学校

小久保美子、子どもたち同士の主体的な関わり合いが生む豊かな読みの世界 新美南吉と出会った子どもたち、新潟市小学校教育研究会、2014年7月9日新潟市東区プラザ

〔図書〕(計1件)

小久保美子、小学校国語 単元づくりに役立つ「言語活動」アイデア集、光村図書出版株式会社、「言語活動」の基本的な考え方、「言語活動」を位置づけた単元づくりのプロセス、2015、pp.6-10、pp.11-16

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小久保 美子 (KOKUBO YOSHIKO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：30413032

(2) 研究分担者

井上 一郎 (INOUE ICHIRO)
京都女子大学・発達教育学部・教授
研究者番号：00149767